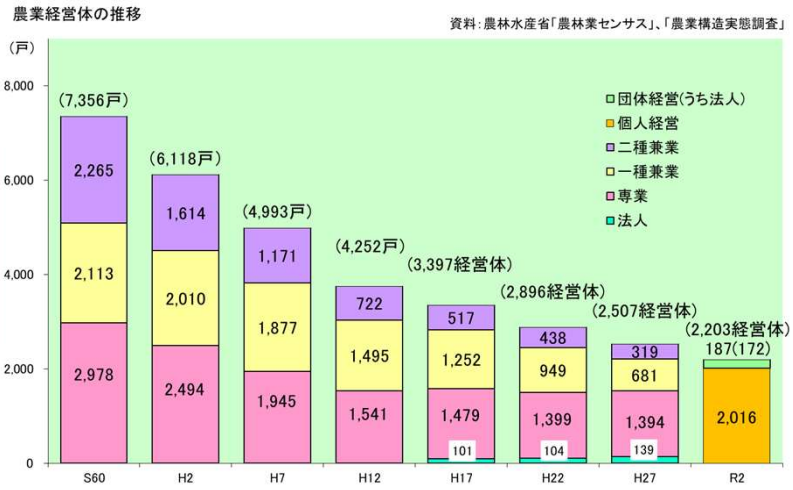
Ⅱ　後志の農業概要

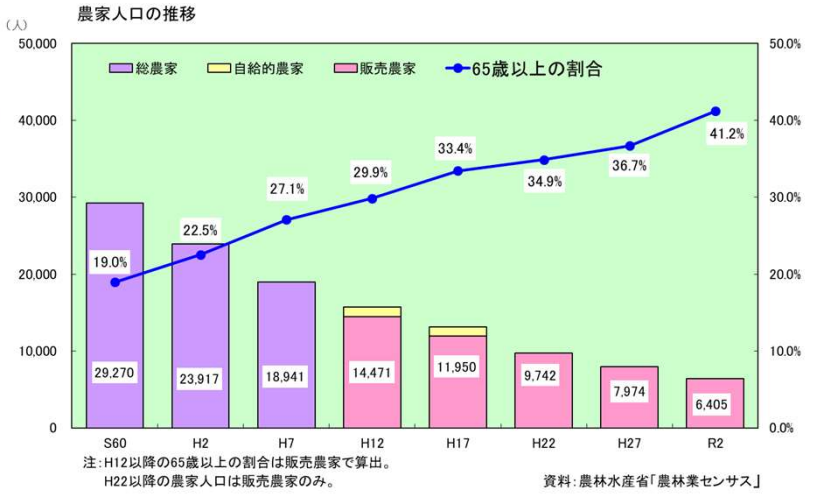
1　農業経営体数

農業経営体数は、高齢化や後継者不足などから年々減少しており、令和2年では平成12年に比べ2,049経営体（51.8%）減の2,203経営体となっています。
令和2年より、個人経営と団体経営に分かれ、法人経営は団体経営の中に含めています。



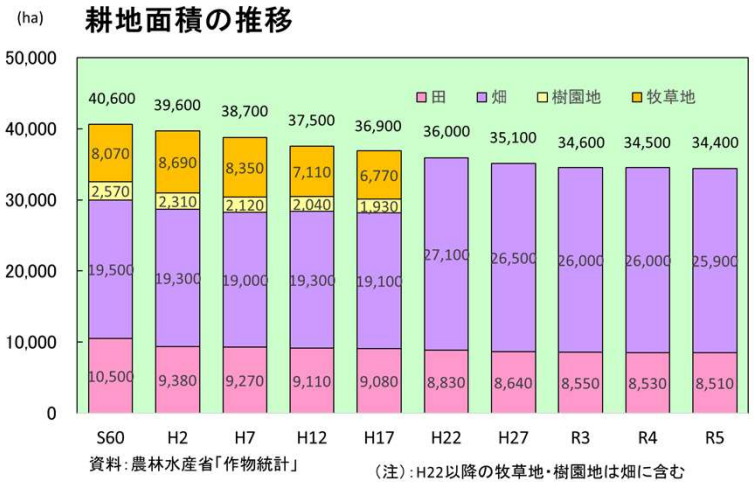
2　農家人口

農家人口は、農業経営体数と同様に年々減少しており、令和2年では平成27年に比べ販売農家で1,569人（19.7%）減の6,405人となっています。
農家人口に占める65歳以上の割合は年々増加しており、令和2年では平成27年に比べ4.5ポイント増の41.2%で、全道平均の37.2%を4.0ポイント上回り、高齢化が進んでいます。



3　耕地面積

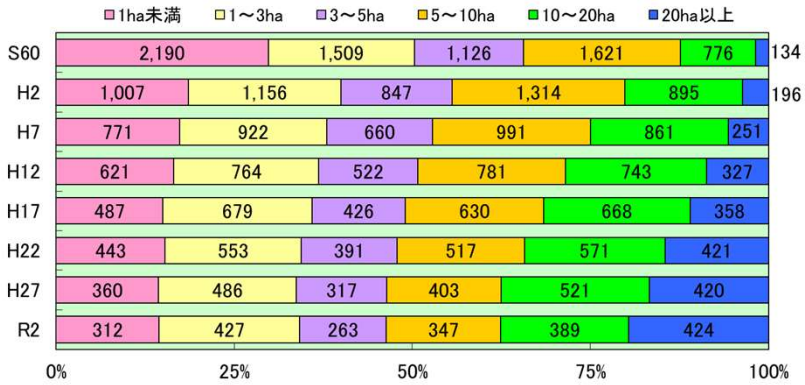
耕地面積は、令和元年から横ばいなっていますが、昭和60年から比較すると、減少傾向となっています。
地目別では、畑の割合が75.3%と高くなっています。



4　経営耕地規模別農家戸数

経営耕地規模別の農家割合は、規模拡大傾向で推移していますが、平均15.6haと全道平均32.7haに比べると小さくなっています。

経営耕地面積規模別農家戸数の推移

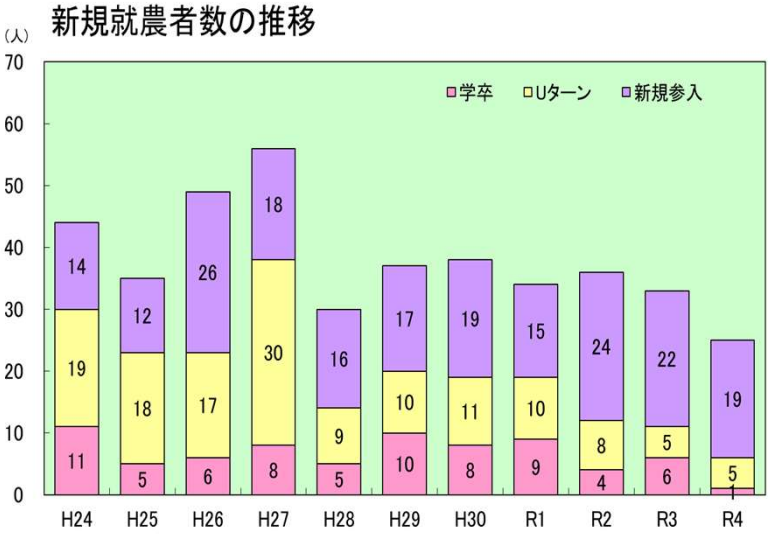


注：H2以降は販売農家、H22以降は経営体数
資料：農林水産省「農林業センサス」

5　新規就農者

新規就農者数は、近年では年間20人～30人程度で推移しており、令和4年は25人が就農しました。
内訳は、農外からの「新規参入者(19人)」が最も多く、続いて農家出身者の「Uターン就農者(5人)、「新規学卒就農者(1人)」の順となっています。

新規就農者数の推移

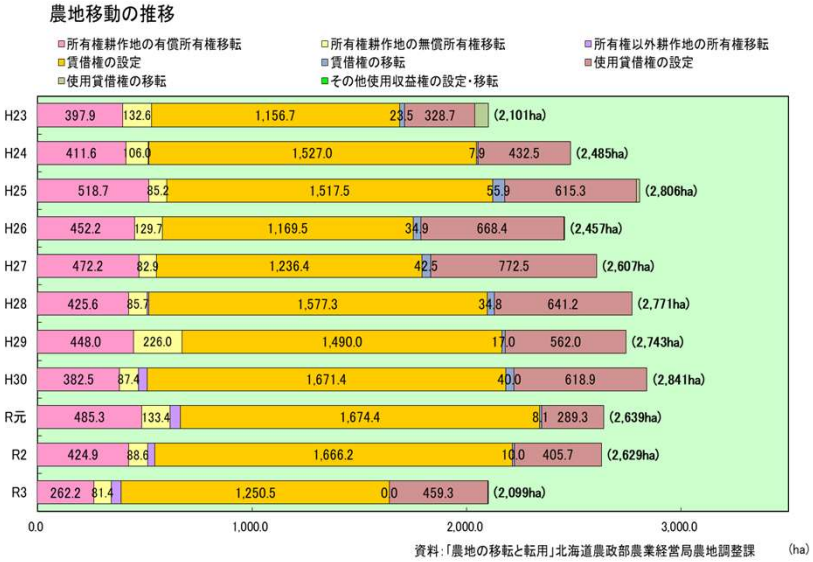


資料：後志総合振興局農務課調べ

6　農地流動化

農地の移動面積は、年によるばらつきがあり、近年は2,500ha前後で推移していますが、令和3年は約2,100haとなっています。
令和3年の内訳は賃借権の設定、使用貸借権の設定が多く、この2つの権利設定によるものが全体の80%を占めています。

農地移動の推移

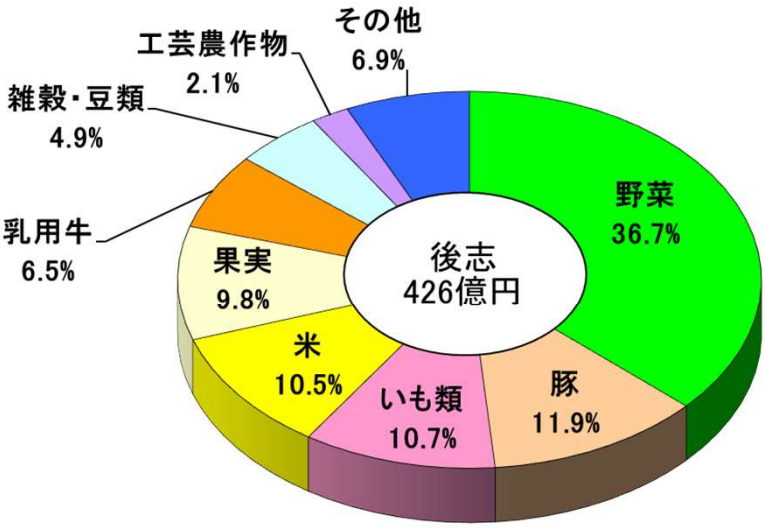


資料：「農地の移転と転用」北海道農政部農業経営局農地調整課

7　農業産出額

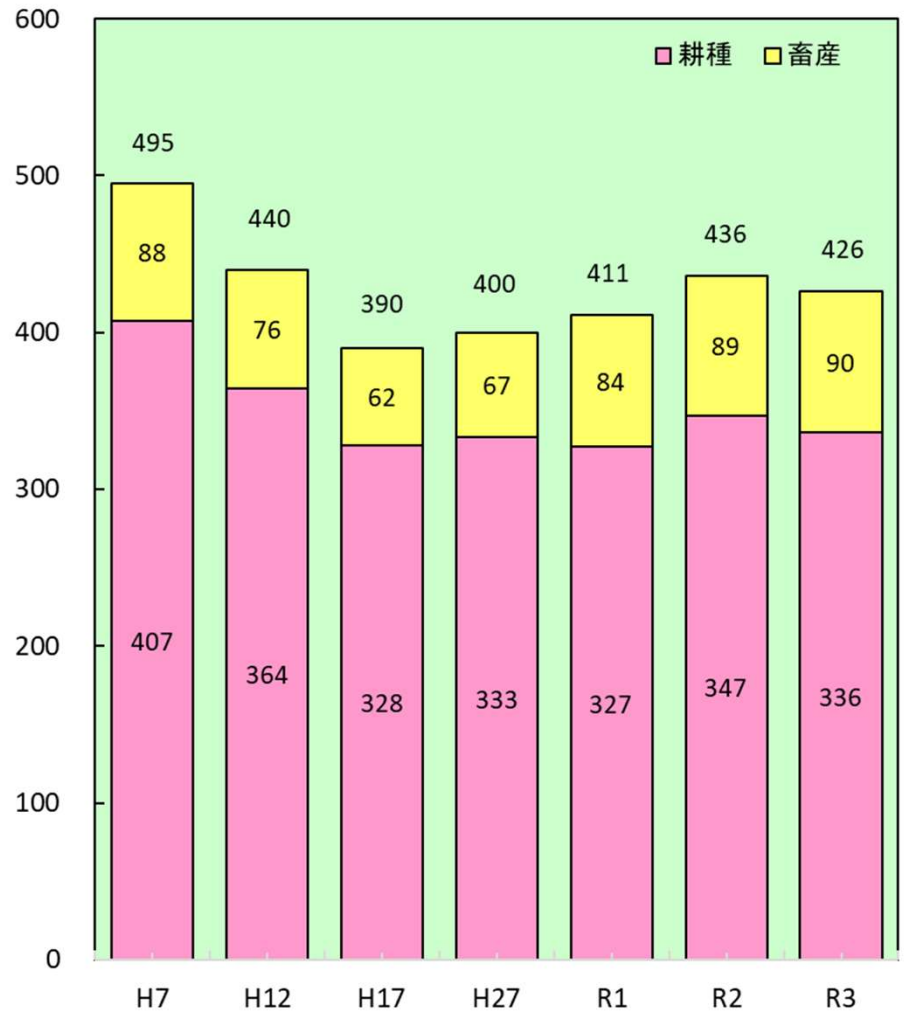
農業産出額は、平成6年の523億円が最高で、令和3年は426億円となりました。
部門別では耕種部門が約7割を占め、野菜36.7%を占めています。果実は9.8%ですが、全道の約5割を占め、管内農業の特色の一つとなっています。

農業産出額の内訳（R3）



資料：農林水産統計年報

農業産出額の推移



資料：農林水産統計年報